

クサキイロアザミウマの
有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：クサキイロアザミウマに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：(開始するに至った問題の本質、目的)

クサキイロアザミウマは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、クサキイロアザミウマの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

クサキイロアザミウマが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

クサキイロアザミウマ（学名：*Anaphothrips obscurus* (Muler)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するクサキイロアザミウマの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

クサキイロアザミウマは、日本全国に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

クサキイロアザミウマは、日本全国に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群間に寄主植物に対する被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	名：クサキイロアザミウマ ^{3)、4)、6)、7)}
学名	名： <i>Anaphothrips obscurus</i> (Muler) ^{1)、3)、4)、6)、7)}
英名	名：American grass thrips ⁴⁾
分類	類：アザミウマ目 (Thysanoptera) ^{1)、4)、6)} アザミウマ科 (Thripidae) ^{1)、3)、4)、6)}

分布：(日本) 日本全国^{3)、6)、7)}
(世界) 温帯ユーラシア、エジプト、モロッコ、アメリカ、カナダ、メキシコ、コスタリカ、コロンビア、チリ、ペルー、オーストラリア、キリバス、ニュージーランド、ハワイ^{1)、3)、7)}

寄主植物：イネ科植物、マメ科植物、クワ科植物、ユリ科植物^{4)、6)}

形態・生態：雌成虫の体長は 1.2 ~ 1.5 mm。体色は長翅型では黄色で淡褐色斑が散在する。短翅型では一様に黄色。雄は知られず単為生殖を行う。北方系の種類で冷涼地に多く、年数世代を繰り返す。発生時期は寒地で 5 月 ~ 10 月、暖地で 3 月 ~ 12 月頃。越冬は成虫態で行い、イネ科草原の土壌表層部や完全に枯れきっていない草むらに潜む。産卵は葉身の基部に集中する傾向があり、1 雌当たりの総産卵数は 50 ~ 230 卵である。^{6)、7)}

被害：成虫、幼虫ともに若い葉を食害し銀白条斑が形成され、ひどくなると葉が縮れるので生育が遅れる。イネ科植物に広く寄生し、散発的にマメ科、クワ科、ユリ科などにもみられる。^{6)、7)}

ベクター・

系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生のある害動植物のベクターとなる旨の記述もない。^{1)、2)}

防除法：イネ、ダイズ、クワ、野菜類、花き類・観葉植物、樹木類等においてアザミウマ類に対する登録農薬がある。⁵⁾

文献：1) CAB International (2011) Crop Protection Compendium. CABI.
(<http://www.cabi.org/cpc/>)
2) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011).
Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
3) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編(2011) 日本産昆虫目録データベース (MOKUROKU)九州大学大学院農学研究院昆虫学教室.
(<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)
4) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京：387pp.
5) 独立行政法人 農林水産消費安全技術センター (2011) 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famic.go.jp/>)
6) 梅谷献二・工藤巖・宮崎昌久 編 (1988) 農作物のアザミウマ 分類から防除まで. 全国農村教育協会、東京：422pp.
7) 梅谷献二・岡田利承 編 (2003) 日本農業害虫大事典. 全国農村教育協会、東京：1203pp.